



令和7年度 秦野市青少年訪問団パサデナ市派遣事業 訪問の記録



令和8年1月11日(日)～17日(土) 5泊7日

主催：秦野市
主管：秦野パサデナ友好協会

INDEX

1	訪問団名簿	P1
2	日 程	P2
3	事前研修・結団式	P3~4
4	見学地の概要	P5~8
5	ホームステイの思い出	P9~11
6	訪問記録	
	《1日目》 1日11日(日)	P12
	《2日目》 1日12日(月)	P13
	《3日目》 1日13日(火)	P14~15
	《4日目》 1日14日(水)	P16~18
	《5日目》 1日15日(木)	P19
7	感想文	P20~27

1 訪問団名簿

区分	No.	ふりがな	性別	所 属 等
		名前		
協会	1	いの のりこ	女	秦野パサデナ友好協会 団長
		猪野 紀子		
高校生	2	しみず みおん	女	神奈川県立伊志田高等学校 3年
		清水 心温		
	3	おやまだ かな	女	神奈川県立有馬高等学校 1年
		小山田 柑奈		
中学生	4	ふるいち こなつ	女	秦野市立渋沢中学校 2年
		古市 小夏		
	5	いぬかい はづき	女	秦野市立鶴巻中学校 2年
		犬飼 葉月		
協会	6	いの ひなた	女	秦野パサデナ友好協会
		猪野 陽菜		
随 行	7	くぼや としゆき	男	文化スポーツ部文化振興課 課長
		久保谷 敏行		
	8	よねづ あかり	女	文化スポーツ部文化振興課 都市交流担当
		米津 朱理		

2 日 程

日(曜日)	時 間	行動内容	宿 泊
1月11日 (日)	6:45	秦野市役所集合	機内泊
	7:00	秦野市役所発	
1月11日 (日)	8:50	羽田空港着	Residence Inn by Marriott Houston Pasadena
	10:50	羽田空港発(NH114)	
	7:45	ジョージ・ブッシュ国際空港着	
	12:00	ランチ(Daily Queen)	
	14:00	ホテル着	
1月12日 (月)	17:30	Welcome Dinner (夕食)	ホーム ステイ
	9:00	ホテル集合	
	9:30	NASA 見学 (施設内でランチ)	
	15:00	NASA 出発	
	15:45	買い物 (Buc-ee' s)	
1月13日 (火)	16:30	ホテルへ出発	ホーム ステイ
	17:30	ホテルからホームステイ先へ	
	7:45	パサデナ市内学校見学へ出発	
	8:00	高校生: ドビー高校 (~13:00)	
	8:00	中学生: トンプソン中学校 (~13:15)	
	13:45	パサデナ独立学区(PISD)庁舎で休憩	
	14:45	買い物(Cavenders)	
1月14日 (水)	16:00	ホテルへ出発	Residence Inn by Marriott Houston Pasadena
	16:30	ホテルからホームステイ先へ	
	9:30	ホテル集合	
	10:00	パサデナ博物館見学	
	11:00	ハイティー(お茶会)&ランチ(市長出席)	
	12:30	マディソンジョーブシニアセンターの禅庭園	
	13:15	公共施設見学(図書館、市役所、警察署)	
1月15日 (木)	16:00	ホテルへ出発	機内泊
	17:00	夕食(Bubba' s33)	
	8:30	ホテル集合	
	9:15	海洋技術訓練センター・サンジェント短期大学見学	
1月16日 (金)	15:00	ホテル着	機内泊
	17:30	SAYONARA Party (夕食)	
	6:00	ホテルチェックアウト、写真撮影	
1月17日 (土)	6:30	ホテル発	機内泊
	10:15	ジョージ・ブッシュ国際空港発(NH113)	
	15:20	羽田空港着	
1月17日 (土)	16:15	羽田空港発	機内泊
	18:00	秦野市役所着	

(3) 第3回事前研修（英会話研修）

日 時：令和7年12月6日（土）午前11時～12時

場 所：秦野市役所本庁舎3階3A会議室

内 容：入国審査の練習、お金のやりとり、英会話すごろく



講師 青木アイリーン先生による指導



すごろくで親睦を深めながら
英語を学ぶ訪問団員

(4) 結団式

日 時：令和7年12月6日（土）午前10時30分～午前11時

場 所：秦野市役所本庁舎3階3A会議室

内 容：石原副市長挨拶、訪問団員紹介、親書受渡し、団長挨拶、記念撮影



各団員は訪問に向けての抱負を発表



石原副市長からパサデナ市長への親書を
託された猪野団長



猪野団長の挨拶



最後に記念撮影

4 見学地の概要

① パサデナ市役所 (PASADENA CITY HALL)

パサデナ市の建物は、日本に比べ低い建物が多いですが、市庁舎は中でもひととき高い建物でした。市庁舎の隣には、図書館や警察署などの施設があり見学させていただきました。

今回の訪問では、トーマス・シェーンバイン市長をはじめ、市職員の皆さんが迎えてくれました。



市長室でシェーンバイン市長と記念撮影



パサデナ市役所見学



図書館で記念撮影



図書館見学



緊急事態管理室見学



警察署で記念撮影

② パサデナ独立学区 (PASADENA INDEPENDENT SCHOOL DISTRICT)

小中学校、高校などの教育行政は、市役所とは独立した組織である「パサデナ独立学区」が管轄しており、その長としてスーパーインテント（教育長）がいます。

パサデナ独立学区は、1896年にたった一つの教室しか無い学校から始まり、現在では約8,000名の職員（そのうち約4,000名が教員）が在籍するほどに発展しました。学校は、Elementary School（日本の小学1～4年）、Middle School（小学5・6年）、Intermediate School（中学1・2年）、High School（中学3年～高校3年）となっています。年間の予算規模は約900億円となっており、その財源は市民から徴収されています。

今回の訪問では、トニー・ロペス教育長に記念品を贈呈した後、質疑に応じてもらいました。



③ トンプソン中学校 (THOMPSON INTERMEDIATE SCHOOL)

日本の中学1～2年生に当たる年齢の生徒が通う公立中学校です。

沢山の課外授業（クラブ活動）があり、生徒は複数のクラブに参加することができます。中でもオーケストラなどの音楽クラブは、テキサス州内で数多くの賞を獲得する活躍を見せています。また、全面に鏡のあるダンス専用の教室や合唱専用の教室など用途ごとに教室があり、整った設備の中で教育を受けることができます。



④ドビー高校 (Dobie High School)

1968年に開校し、9年生から12年生までが在籍する（日本の中学生と高校生にあたる年齢の生徒が通う）大規模校で、生徒数は約3,700人規模にのぼります。多文化・多民族の生徒が在籍する地域を代表する高校で、ヒスパニック系を中心に多様な背景を持つ生徒が学んでいます。英語学習支援（ESL）や特別支援教育、ギフテッドプログラムなど幅広い教育体制が整えられています。課外活動も盛んで、フットボールやバスケットボール、サッカーなどの運動部に加え、マーチングバンド、チアリーディング、AFJROTC（空軍予備役士官訓練課程）、Academic Decathlon（学術競技）など多彩なクラブ活動があります。マスコットは「ロングホーンズ（テキサス長角牛）」で、学校カラーはオレンジと白です。地域社会との結びつきが強く、長年にわたりパサデナ地域の教育の中心的存在として発展してきた高校であり、多文化理解と地域貢献を体現する学校の一つといえます。



⑤サンジャシント短期大学 (San Jacinto College)

パサデナ市と隣町のヒューストン市のキャンパスで約32,000名の学生が学ぶ、1961年創立のコミュニティーカレッジです。石油化学・海洋・宇宙・医療など、幅広い分野について学べる日本の短大に相当する学校です。日本の企業（三菱ケミカル・クラレ・オリンパスなど）も出資しています。教室には、企業で実際に使用する機材が置いてあり、就職後を想定した訓練が行われています。



また、トリニティ湾に面した海洋技術訓練センターは、米国沿岸警備隊公認の施設で、海洋・消防分野を学ぶことができます。巨大シミュレーターを使った船の操縦や実地での訓練を積むことができます。



⑥ パサデナ博物館 (Pasadena Heritage Park & Museum)

市中心部のメインストリート沿いに位置し、初期開拓時代から 20 世紀にかけての地域の暮らしや産業の変遷を学ぶことができます。館内および敷地内には、当時実際に使用されていた歴史的家屋が保存・移築されており、代表的な建物にはポメロイ家住宅などがあります。これらの建物内部には、当時の家具や生活用品、農具、写真資料などが展示されており、初期入植者の生活や地域社会の様子を具体的に知ることができます。また、年表形式の展示によって、パサデナの発展過程や地域の重要な出来事も分かりやすく紹介されています。この博物館は、パサデナが農業中心の小さな町から現在の都市へと発展してきた歴史を体感できる貴重な施設であり、地域の誇りと伝統を伝える拠点となっています。日本の展示コーナーがあり、秦野市の絵やペナント等が展示されていました。



⑦ ジョンソン宇宙センター (JOHNSON SPACE CENTER)

ヒューストン市内にあるアメリカ航空宇宙局 (NASA) の宇宙センターです。全米に 10 施設ある NASA のフィールドセンターの一つです。元は、有人宇宙センター (MANNED SPACECRAFT CENTER) と呼ばれていましたが、1973年に、テキサス州出身の元アメリカ合衆国大統領である、故リンドン・B・ジョンソンに敬意を表し、現在の名称に改名されました。

館内には、子どもから大人まで楽しむことができる、宇宙関連のアトラクションや体験資料、土産店などが設置されています。敷地内の施設をトラムで巡る見学ツアーに参加し、NASA で研究員として活躍されていたパサデナ姉妹都市協会の秦さんに詳しく案内してもらいました。



5 ホームステイ

①小山田柑奈&古市小夏

【ステイ先】 Sanchez 家



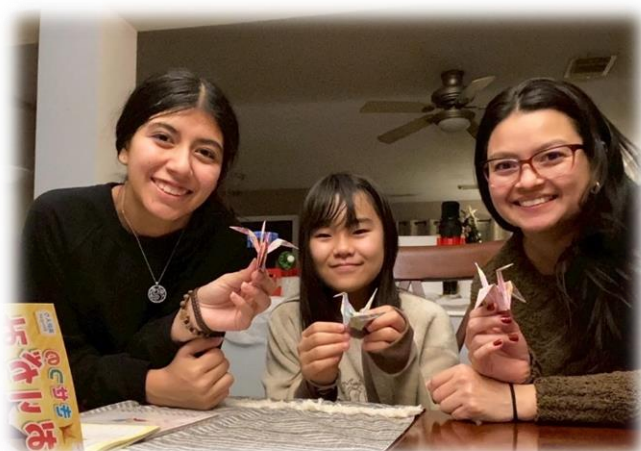
小山田 柑奈（高1）

初めて会った時からあたたかく、私たちをよく気にかけてくれました。1番印象に残っている思い出は夜遅くまで折り紙、UNO、Trouble というゲームをしたことです。コミュニケーションがたくさん取れて姉妹のように仲良くなりました。

ホームステイ先の人たちは、すごく優しく接してくれてバスケの試合や、得意料理などを作ってくれました。後日レシピも教えてもらいました。初めてのスポーツ観戦は日本ではなくパサデナ市の大きいドームで”本当にいいんか?!”って思いました。



古市 小夏（中2）



②清水心温 & 犬飼葉月
【ステイ先】 Nicol 家



清水 心温 (高3)



ホストファミリーはとても温かく、安心して過ごせました。一緒に日本のカレーを作り、協力しながら楽しい時間を過ごしました。夜は夕食後に UNO をして、たくさん笑えた最高の思い出です！！

ホームステイ中、MaryBeth さんお気に入りの本屋に連れて行っていただき、多くの本の中からおすすめの一冊を選びました。宝探しのようで印象深い体験でした。また、夕食後に家族で UNO をするなど、温かく楽しい時間を過ごしました。



犬飼 葉月 (中2)



③猪野紀子&猪野陽菜
【ステイ先】Arnold 家



猪野 紀子（友好協会）



CarolさんとTerryさんはとても優しく素敵なお夫婦でした。空港での笑顔のhugのお迎えから、ほとんど同行してくださり、夕食後は楽しくおしゃべりをして過ごしました。
団員全員を招待した朝食、「ハイティー」とその記念のクッキーやタオルなど、素敵なおもてなしは私の宝物です。お二人が秦野にいらした際にはお返しをしたいと思います。

CarolさんとTerryさんとは素敵な時間を過ごすことができました。初めてお家に伺った時から、プレゼントをお部屋に用意いただいたり、日本での思い出を話していただいたり、私たちをととても歓迎していただき、初めてのパサデナを安心して楽しく過ごすことができました。また必ずパサデナを訪れて、お二人が好きな日本の食べ物やグッズをプレゼントしたいです。



猪野 陽菜（友好協会）



6 訪問記録

《1日目》1月11日(日)

早朝に秦野市役所に集合し、羽田空港からヒューストンへ向かいました。長時間のフライトでは映画を三本観て過ごし、期待と少しの不安を抱えながらアメリカに到着しました。空港到着後、まずファーマーズマーケットを訪れました。日本では見たことのないほど大量のスパイスや色とりどりの果物が並び、規模の大きさに圧倒されました。そこで食べたマンゴーはとて甘くて美味しく、本場ならではの味を感じました。その後、ガラスの破片などの廃材で作られたアート作品を見学しました。身近な「ゴミ」からあれほど壮大で美しい作品を生み出す発想力に驚き、日本ではなかなか思いつかない表現方法だと感じました。

昼食はファーストフード店「デイリークイーン」でとり、アイス作りを体験させていただきました。実際に自分で作るのは初めてで、とても楽しく貴重な経験になりました。ハンバーガーもテキサスサイズで、

日本との違いを実感しました。その後、食べ過ぎてしまったためホテルのエクササイズルームで中学生と一緒に走り、夜のウェルカムディナーに備えました。夜はホストファミリーの方々が温かく迎えてくださり、不安よりも楽しみな気持ちが大きくなりました。盛りだくさんで刺激的な、最高のスタートとなる一日でした！【清水】



《2日目》1月12日（月）

私たちは NASA に向かいました。自分達だけで行っていたら多少理解ができる所をパサデナ市在住の日本人（パサデナ姉妹都市協会会員）のめぐみさんからの詳しい説明によってよく理解でき、今まで自分になかった新しい知識ができたと思います。【小山田】

・昼食

サラダを頼んだのですが、想像よりも量が多く、食べられる時間も限られていたため、美味しかったけれど全て食べることが出来ませんでした。

・Space Center アポロ 11 号打ち上げ時の映像と当時の制御センターの見学

午前の見学でアポロ計画のときはコンピュータの性能が今よりずっと未発達だったため、主に人が設計やロケットの製作を行っていたと説明を受けました。それだけでも私は驚いたのですが、当時の映像と現場の様子を見たときに「人間はこんなこともできてしまうのか」と圧倒されました。

・Buc-ee's での買い物

日本のスーパーマーケットと違って色々なものが売っており、テキサスの形をした大さじと小さじのセットや様々な種類のワードゲームが置いてありました。特に印象に残ったのは、お菓子コーナーがとても広く、チップスだけの通路やキャンディだけで棚が埋まっていたことです。【犬飼】



《3日目》1月13日（火）

朝起きて、ホストマザーにトンプソン中学校に送ってもらいました。そこでいちごやパイナップル、パンにチキンが挟まっているあまじょっぱいものを食べました！朝から沢山食べれて幸せでした。その後なにかしらの障がいのある子供たちに日本からの手土産を配って、金平糖も美味しいと言って食べて頂けました。お菓子と一緒に日本のアニメのシールとかを配って、みんな鬼滅とか知ってて世界的ですごいなと感心しました。絶賛です。



ドビー高校では、まず着くと、日本との学校の大きさに違いすぎて驚きました。テニスコートやグラウンドの大きさもドデカかったです。蛇を飼っていて、触らせていただきました。あと日本と違ったのが、担当の先生が授業で来るのではなく、生徒達が教室を回るといって感じで全て移動教室らしいです。一人一人が自分のやりたいことを学べる体制が整っているのがとてもいいなと思い、日本もただ理系文系と分けるのではなく、そこは真似して欲しいなと思いました。【清水】

朝早くに起きて、初めはトンプソン中学校に行き日本と比にならないくらいの生徒さんに会いました。おそらく学校に日本人が来ることはない？ので、私たちを見た瞬間みんなが手を振ってくれてとても嬉しい気持ちになりました!!高校に行っても同じ感じでした!!【小山田】



・Thompson 中学で自閉症の生徒の方々と交流

全員が心地よく過ごせるよう教室の内装や授業の仕組みにこだわっていることがわかりました。その日の天候や気温によってどんな服装をするのが良いのか考えることや、洗濯の仕方を学ぶという個々に合わせた実用的な学習計画が面白いと思いました。

・国語、合唱、ダンス、体育、美術、弦楽、吹奏楽などのクラスを見学

合唱のクラスではハンドサインを使って音階を表して、リズムを取る練習をすることが印象に残りました。

体育のクラスを見学したとき、男子と女子で体育館が別れていることにも驚いたのですが、それを隔てる壁には Thomason 中学のトレードマークであるライオンが迫力のある絵で描かれているところに、人々の学校の捉え方の日本との違いを感じました。



美術のクラスではペンだけで模様を描き、紙の余白をできるだけ埋めるという内容で、私達もそれに参加しました。皆それぞれの描き方があって、とても楽しかったです。

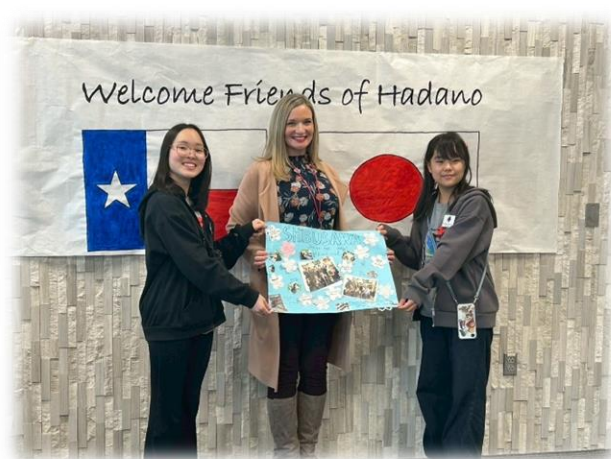
弦楽と吹奏楽はどちらも中学生と思えないくらい綺麗な演奏でした。大会では3曲披露すると聞き、見たかったな、と思いました。

【犬飼】

今日の大イベントの学校見学に行きました。中学生はトンプソン中学校、高校生はトビー高校を見学に行きました。学校自体の構造が日本とは異なって二階までしかなく大きく平べったかったです。授業の種類もオーケストラやバンド・合唱・ダンスなどがありました。また移動時間が四分間しかなかったりお昼ご飯の時間が各自割り振られていたり毎回受ける授業によって教室を変えたりしていました。授業を見て回ったあとは実際にカフェテリアでトンプソン中学校の生徒さんとカフェテリアでお話しながらご飯を食べました。お昼ご飯を食べた後はパサデナ市の教育委員長にお会いしました。そこでお菓子を食べたりお土産をもらいました。実際に会議が行われる会議室を見せてもらったり社員のオフィスなどを見せてもらいました。

【古市】

午後は CAVENDER'S というお店に行きました。カウボーイグッズのお店でした！初めて見る本物のカウボーイブーツは触ってみるとふわふわツルツルした手触りで、円安の環境もありお値段は高めでしたが、その分いいものだというのが伝わってきました。その他にも洋服やアクセサリーなどが売っていてお店の雰囲気自体がとてもカッコよく、店内を見るだけでも楽しかったです。



その後は、ホームステイ先へ向かいました。ホームステイ先の娘さんがブラウニーと得意料理のチキンズッキーニパスタを作ってくれました！美味しすぎて後日レシピ



を教えてくださいました。夕食を食べたあとバスケの試合を見に連れて行ってくださいました。人生初のスポーツ観戦がまさかのアメリカだったことに感動しました。バスケの試合の後はダウントOWNの中をドライブに行きました。ダウントOWNの建物はすべてビルで、夜に行くと明かりがきれいなので夜に行くことをおすすめします！

【古市】

《4日目》1月14日（水）

キャロルの家に行き、大豪邸で綺麗でドラマの中に来たみたいだなと感じました。13日と似たようにフルーツとタコスのようなものを食べました！その後、パサデナ博物館では過去のパサデナの成り立ちを学び、とても歴史あるそしていちごに救われた町だと知りました。そして市長とのランチは、とても緊張しましたが楽しい時間を過ごせました

また訪れて、今度はもっと英語が上達して、全部自分の言葉で秦野の魅力や雑談等も沢山お話に行きたいと思っています。

老人ホームや警察署も訪ね、老人ホームではビリヤードなどが置かれており、そしてビンゴ大会などもあるらしく、とても退屈ではない楽しいところだな私が歳とったらこんな楽しい老人ホームなら早く入りたいたったくらいです。緊急司令センターにいたり、とにかくバタバタ忙しく、どこに行っても私たちをこころよく歓迎してくれて本当に暖かい街だなと思いました！ディナーの前に、めぐみさんちの馬やヤギを見せて頂いて、まるで庭が牧場のようでした。ディナーは、食べきれないくらいのチキンなどが出てきて、毎回特に食事のサイズにはびっくりしまし



た。

みんなと話して、沢山のパサデナ愛の話をきけて、本当に楽しい時間となりました。

【清水】

久しぶりに制服を着て過ごしました。朝はキャロルのお家で朝ごはんを食べることから始まりました。その後にキャロルのおばあちゃんなどのおうちが集まっているところに行き、当時の洗濯機、キッチン、実際着ていた服など様々な歴史を見たり聞いたりしました。もうここに行ける可能性は低いのではないかと感じたので沢山写真を撮ったりしました。日本でも絶対に行けない緊急司令室に入れたことが何より驚きでした。夜はホストファミリーもみんな集まって前夜祭の様な食事会をしました！全てがテキサスサイズでほぼ全員持ち帰っていたのが思い出になってます。【小山田】

・朝食

この日は Arnold 夫妻のご自宅で朝食をいただいたのですが、家にお邪魔した際、外装だけでなく内装も日本と全然違った作りをしていて驚きました。食事の内容もタコスやフルーツなどで、まるで小説の中の世界に入ったかのように感じました。

・パサデナ博物館見学

古い家を改装して作られていて、歴史を感じる家具やアンティークなデザインの道具がたくさん置いてありました。この文化は日本とは異なる道を辿ってきた証なのだな、と改めて歴史の差を実感しました。

・ハイティー

出てくる料理がどれも美味しそうで、どれから食べたらよいか迷ってしまいました。紅茶もいただいたのですが、私の選んだものは綺麗に澄んだ桃色で、飲んでしまうのが少しもったいないと思いながら、美味しかったのでどんどん飲んでしまいました。



・公共施設見学

市役所内を案内してもらい、見て回ったのですが、どこの部署もそれぞれの特色があり、皆さんそれぞれが自分の仕事に誇りを持って取り組んでいる姿勢を感じて、とても素敵だと思いました。

• Bubba's 33 で夕食

ピクルスを揚げたチップスを初めて食べたのですが、じゃがいものチップスよりも少し爽やかな、あっさりした、けれどザクツとした衣がついていて、新鮮な美味しさでした。好きな人と苦手な人で分かれるそうですが、私は美味しいと思いました。

お店を出る際、皆でレトロ感がある車の形をした椅子に座って写真を取りました。日本ではなかなか見ることのない照明やオブジェがあって面白かったです。【犬飼】



朝食は姉妹都市協会の人の家でタコスとフルーツを食べました。そこで飲んだクランベリージュースが美味しくて好きになりました。家の周りは映画に出てくるような感じで道路も広がりました。その後博物館に行き、パサデナの歴史がわかる絵や物がたくさんありました。昔の診察台などもありました。昼食はパサデナ市長と一緒にいただきました。ご飯はサラダやサンドウィッチ、クッキーなどがありました。そこにあったクランベリーチーズケーキが美味しかったです。ランチが終わるとティーカップとティーポットのクッキーでおしゃれな時間を過ごしました。その後シニアセンターに行きました。そこでは毎日イベントがありその日はビンゴの日だったそうです。ビンゴも日本とは違い数字じゃなくて絵や文字が書いてありました。その後緊急指令センターに行きました。モニターがたくさんありいつでもパサデナ市内がみわたせるようになっていて近未来みたいでした。図書館には日本の漫画やクラフト室がありました。クラフト室にはレーザーで材料を切る機械やたくさんの材料がありました。市



役所の中には色々な部署がありテレビ撮影ができる場所までありました。市長の部屋からの景色はパサデナ市が一望できる大きな窓がありました。夜ご飯は Bubba's に行きました。お店の席につくとモニターに”Welcome HADANO SISTERS”と書かれていました。私はフィッシュフライを頼んだんですが基本的に全部が大容量で日本の二人前くらいあったと思います。その後スーパーに行きました。野菜など何もかもがたくさんありました。一番の驚きだったのは、買い物中の人に”どこから来たの?”と聞

かれたあとに”これ美味しいから食べてみて、どうせ買うから”と言って箱から一つお菓子を出して渡してくれた人がいたことです。日本でやったら怒られてしまうので日本にはない自由な感じがアメリカだなと思いました。その日はホームステイ先の人とUNO や Truble、折り紙をして遊びました。【古市】

《5日目》1月15日（木）

色々なことを話してたら、楽しくてつい夜更かしをしてしまい、ほとんど眠れないまま朝を迎えた。それでも研修最後の見学という思いで気持ちを切り替え、海洋技術訓練センターを訪れた。現場に必要な人材をピンポイントで育成し、卒業後すぐ即戦力として働ける仕組みが整っていることに強く感心した。実践的で無駄のない教育方法は、日本とはまた違った魅力があり、とても合理的だと感じた。施設では、シェフが作ってくださったパスタをいただき、疲れていた体に染みるほど美味しく感じた。研修も終わりに近づいていることを実感し、少し寂しさも感じながら、一つ一つの経験の大切さを改めて噛みしめた午前だった。【清水】



ホストファミリーとの最終日。朝から別れるというのがつらかったですが、その日を何とか過ごせました。海洋技術訓練センターに行き船の運転シミュレーションや、すごく重たい縄を投げてリングに掛けたり貴重な体験が出来ました。夜には関わってくれた方が集まってさよならパーティーをしました。そこでは沢山のひとと本当に最後に会うという考えがありました。ですが、少しマイナスな事は考えず色んなひとと話し、覚えてもらえるように、話しかけられたらそれに対する質問を頑張って返しました。もう一度現地に行き、会いたいなと思っています。【小山田】



7 感想文

秦野パサデナ友好協会
猪野 紀子(訪問団長)

19年ぶりに訪れたパサデナ。人々の変わらない温かさに感謝

私は市職員として3回の訪問団の受け入れ、そして19年前、初めての青少年交流訪問団、少年野球交流に随行しました。その後はパサデナ市からのホームステイ受け入れなど家族で交流のお手伝いをしていましたが、今回は行けなくなった友好協会の方の代わりに、急遽訪問することとなりました。

今回の私の役割は団長でしたが、何よりも中高校生の皆さんが、初めて訪れるパサデナ市で、少しでも不安をなくし、充実した5日間を過ごせるお手伝いをすることが私の役割と思い、訪問前に自身の経験から情報をシェアさせていただきました。そして、女性が2名必要だということで、2歳の時にパサデナ市の方々と初めて会い、交流してきた娘と一緒に訪問できる機会をいただけたことに感謝しております。

これまで関わってきた多くの方が逝去されてしまっている中、訪問の間、常に付き添ってくださったゲイル前会長やプルデンシオ会長との再会、高齢にもかかわらず、高速道路を自ら運転しホテルまで会いにきてくださったゴード前会長夫妻と短い時間でしたが過ごすことができ、日本にいる息子ともビデオ通話をすることができました。また、19年前に少年野球交流でご一緒した数名の方にも現在のお写真を送ってもらい、当時の写真と合わせてお見せし、彼らの成長した姿を喜んでもらえました。

そして空港のお迎えからお仕事があるにも関わらず交代で付き添ってくださった姉妹都市協会の皆さん、全日程通訳として同行してくださった秦さんに本当にお世話になりました。いつでもどこでも初めて会った方にも「Hi!」と笑顔で歓迎していただき、変わらないテキサスの方々の温かさに触れることができました。

中学校訪問では、トンプソン中学校で支援級の様子、クワイヤーやオーケストラ、バンドの授業を見学し、レベルの高い指導に驚きました。美術とダンスの授業、カフェテリアでのランチは中学生は学生の方と一緒に参加させていただくことができました。

今回の主役である中高校生の皆さんがホストファミリーや他のパサデナの方々と毎日に積極的に交流し、どんどん笑顔が輝いていく姿を見て、何よりも嬉しく感じました。

次世代に引き継いでいくため、この青少年の交流の継続を願い、パサデナ市長やホ

ストファミリーの Carol さんにパサデナからもぜひ、青少年を派遣してほしい旨をお伝えするとともに、トンプソン中学校でも直筆のミニ色紙を渡しながら、「秦野に来てね！」と中学生に声をかけました。

ミニ色紙には金粉入りの墨で「愛」「夢」「侍」「翔」（大谷翔平から）50枚を書きましたが、一番人気は「愛」でした。テキサスは地元のチームを熱烈に応援する傾向があり、「翔」が人気がないのが意外でした。

ホストファミリーの連絡先を事前に教えていただいたので、私たちの写真入りのメールをして、「日本のスイーツで好きなものはある？」「Green Tea は好き？」など好きなものを尋ねると、抹茶がお好きだとお返事が来たので、お抹茶を立てる道具セットや抹茶味のキットカット、富士山の写真入りのクッキーなどをお土産として持参しました。

お抹茶の点て方をお教えすると、翌日近所に住む娘さんと呼んで披露して喜んでいただけました。ホストファミリーの Carol さんと Terry さんとは夕食後、フットボールの試合を見ながら、これからの交流のことや政治のことなど、直に伺うことができ、充実した時間を過ごすことができました。

パサデナの皆さんが秦野市を訪問された時は、私たちがパサデナで受けたたくさんのホスピタリティ溢れるおもてなしへの恩返しをしていきたいと思います。

最後に、訪問のスケジュールやホストファミリーの受け入れ調整など、さまざまな準備をしてくださった市事務局、両市の友好協会、姉妹都市協会の皆様に感謝いたします。



青少年訪問団パサデナ市派遣事業の一員としてパサデナ市を訪問し、私にとってとても貴重で忘れられない経験となりました。緊張しやすい性格の私は、出発前は海外での生活や英語での交流に少し不安を感じていました。しかし、現地の方々はとてもフレンドリーで温かく、少しずつ緊張がほぐれていきました。

ホストファミリーとの生活で特に印象に残っているのは、一緒に料理をしたことです。日本のカレーを作り、ホストファミリーに振る舞いました。言葉が完璧に通じなくても、「これどうする?」「一緒にやろう」と声をかけ合いながら料理をする時間がとても楽しく、自然と距離が縮まりました。家族も積極的に手伝ってくれて、笑いながら過ごした時間は忘れられません。また、UNO を一緒にしたことも楽しい思い出です。世界共通のカードゲームを通して、言葉が少なくても気持ちが通じ合うことを実感しました。



学校訪問では、生徒一人ひとりが自分の進路を意識し、早い段階から行動している姿に刺激を受けました。また、校内で日本のお菓子を沢山配りました。簡単な英語しか使えないのがとても悔しかったです！自分の言いたいことを英語で即座に考え、相手に伝えることの難しさも強く感じました。英語が好きで学んできたつもりでも、実際の会話では聞き

取れず戸惑う場面もあり、まだ力不足だと感じました。しかし、異文化に触れ、日本とは違う食事を楽しみ、現地の友人ができたことで、その経験自体がとても楽しく、もっと英語を使えるようになりたいという気持ちが強くなりました。

私は将来、看護の分野で人々を支える仕事に就きたいと考えています。今回の交流を通して、言葉や文化が違ってても、自分から積極的に関わり、相手の話をよく聞き、寄り添おうとする姿勢が何より大切だと実感しました。この経験をきっかけに、さらに英語を学び、日本だけでなく様々な国の人々と向き合える看護師になろうと思います。

1日目は夜にホストファミリーと初めて会いました。とても緊張したけど優しくて安心できました。1週間の初めからすでに楽しくなりました。次の日には NASA に行きマールキュリー、ジェミニ、アポロを知りました。次に飛ぶ ORION とそれを安全か研究している所も見ました。日本に居たら私は NASA について学ぼうと思わなかったと思います。施設内を回るうちに段々と興味を持ってました。機内ではマジックテープを使ってボールペンなどを固定していた事にびっくりしました。



1番頭に残っているのは NASA での話でした。アメリカはやっぱり文化が違うので食べ物が想像より大きく美味しかったけど食べるのが大変でした。それも世界観を変えるチャンスだと思ったのでメモをし、将来の異文化に対する理解と視野を広げるという目標を達成できたと思います。

次にホストファミリーとの生活です。秦野市を出発する前から英語を話せるかコミュニケーションを取れるのかと不安ばかりでしたが、自分から積極的にいかないと成長出来ないからと感じたので初めは全然話しかけれなかったけれど、後から自分から話しかけるようになりました。



目標の英語力を向上させる。これは少し達成できたのではないかと感じています。私は今後学生の中にたくさんの言語を学び今回一緒に行動してくれた恵さんの様な通訳ができる人になりたいという新しい目標ができました。高校の国際が関係するものなど積極的に参加し、日本語ではない言葉を習得していきたいと思いました。

目標の英語力を向上させる。これは少し達成できたのではないかと感じています。私は今後学生の中にたくさんの言語を学び今回一緒に行動してくれた恵さんの様な通訳ができる人になりたいという新しい目標ができました。高校の国際が関係するものなど積極的に参加し、日本語ではない言葉を習得していきたいと思いました。

私は今回の訪問をきっかけにたくさん
のことを学んだり、改めて体験して学ぶ
大切さを知りました。パサデナ市につく
までの飛行機の中ではワクワクした気持
ちでいっぱいでした！到着する直前に飛
行機の中から登ってくる真っ赤な太陽が
見えて更に気持ちが高まりました。



空港につくと看板はもちろん日本語で
はなく英語で書かれていました。入国審査で引っかけられないか、ちゃんと質問に答え
られるかとドキドキしていましたが実際に質問は一個もされずに指紋をとって終わっ
てしまい”本当にこれでいいのか”って思ってしまうほどでした。それが終わるとパ
サデナ市の姉妹都市協会の人たちがお出迎えしに来てくださっていてうれしかったで
す！ですが実際に話してみると喋るスピードが早くて聞き取れなかったのですがこの訪
問が終わる頃には聞き取れるようになり、自分の成長を実感できました。ホームステ
イ先の人たちはすごく優しく接してくてバスケの試合や、得意料理などを作ってくれ
ました。NASAに行ったときは通訳さんがNASAの元従業員で歴史や、展示物の説

明をしてくださり宇宙の歴史について知ることができまし
た！また、次に月に行くロケットの人が乗るところを見ま
した。どれもかもが人生で経験できるか、できても一回し
かできないくらいの貴重な体験でした。

アメリカは日本と何もかもが違っていてそれに慣れた頃
にはもう訪問が終わっていました。この訪問を受けて、自
分の英語力や英語が伝わる楽しさを知ることができ、改め
て英語を学ぶ大切さと伝わる楽しさを知ることができまし
た。



今回の姉妹都市交流では、異なる文化に直接触れることで、自分の未来を考える大切なヒントを見つけたいと思い、参加しました。しかし振り返ってみると、将来についての明確な結論を出すことは出来ませんでした。その一方で、自分は何を大切に生きていきたいのかを考え続ける必要があると感じました。

特に印象に残っているのは、学校訪問の際に色々なクラスを見学したことです。教室の雰囲気や授業の進め方が多様で、生徒が自分の興味や関心に応じて科目を選択できる点に驚きました。日本にも技能教科はありますが、主要五教科を中心とした座学が重視され、選択の幅は限られていると感じます。

Thompson 中学で「私達は生徒の選択を尊重している」という言葉を先生方に聞いたとき、選択できること自体が学びの一部になっているのだと気付かされました。生徒が自分で考え、決断する機会を与えられているからこそ、主体性や責任感が育てられているように感じました。この経験を通して、日本の学校も、生徒がもっと自由に

考え、自分の道を模索できる場所であってほしいと思うようになりました。

今回の交流で将来の答えを見つけることは出来ませんが、自分で考え、選び続ける姿勢の大切さを学ぶことができました。この気付きを、今後の学校生活や将来を考える上で生かし、自分が何を大切に生きていきたいのかを問い続けていきたいです。



2009年、当時8歳の時に初めてゴード夫妻をホストファミリーとして迎えてから17年。2017年には家族でパサデナ旅行を計画していたものの、ハリケーン Harveyにより出発前夜にキャンセルとなっていた中、長年の夢であったパサデナへの訪問が叶いました。

本来であれば訪問の機会をいただくのが難しいなか、中高生の付き添い、サポートとしてお声がけいただき光栄に思います。様々な調整や準備をいただいた市事務局、両市の友好協会、姉妹都市協会のみなさまに深く感謝申し上げます。

パサデナ訪問では、大人の私でもたくさんの初体験・驚き・学びの連続でした。

ドビー高校訪問では、学生の「学びたい」を尊重したカリキュラムが非常に魅力でした。全員が同じものを学ぶのではなく、それぞれが学びたい先生のもとで学べるという、【機会が与えられ自分で選択できる】という教育方針を見て、私や高校生2人は、ここで学びたい！という気持ちが芽生えるほどでした。

また、ランチ時間に合わせてカフェテリアにいる学生と交流した際には、日本文化が想像以上に浸透しており、学生たちは鬼滅の刃やサンリオ、ナルトといった日本のアニメ話やステッカーに大興奮。そのほか、日本に行っていづか着物を着たいという子どもおり、言語を超えた文化交流ができて高校生たちも非常に楽しんでいたので印象的でした。

SAN JACINTO COLLEGE では日本ではなかなか見られない実践的な教育制度に驚かされました。大学よりも安価な学費で学ぶことができ、企業の人材ニーズに合わせて即戦力で活躍できるよう企業連携を密に行い質の高い教育が実施されていました。私自身、現職の人材のエージェントとして製造業の企業から技術者不足に困っていると毎日相談を受ける中、このような企業支援・連携や教育制度を非常に魅力的に感じました。

そして、一番心に残っているのはパサデナのみなさんの温かさとホスピタリティです。

姉妹都市協会の方はもちろん、訪問先の施設の方々には常に笑顔で温かく迎え入れて

いただきました。当初は緊張でなかなか話せなかった中高生もパサデナのみなさんの積極的なコミュニケーションや温かさで和み、少しずつ自分から話せるようになっていきました。

私のホストファミリーの Carrol・Terry 夫妻は、日本の文化やパサデナの歴史、政治についてまでたくさんの会話を交わしました。抹茶や日本のお菓子が大好きだという Carrol さんと娘さん。朝食で買ってきたカリフォルニアロールをいただきましたが、日本でまだお寿司を食べたことがないとのことで、次に日本で迎える際はお寿司屋さんに連れていくと決心しました。

また、10年ぶりにゴード夫妻との再会も果たせました。日本で2014年に私とダンスを踊ったのを覚えてくれていたグランパエド、大きくなって私のことを実孫のように愛してくれるグランマジャニス。2人とパサデナで再会できたことは夢のようでした。

そして常に私たちを見守ってくれ付き添ってくれたゲイル前会長、プルデンシオ会長、クリスチャン副会長、ベッキーさん、ローレンさんにも感謝の気持ちでいっぱいです。1日に一回は、秦野での思い出話やまた訪問したいという会話が出るほど秦野を愛してくれています。

飛行機で14時間もかかる遠い地で秦野や秦野市民のことを思ってくれる温かさを実感し、次にパサデナの方々が来訪した際には最大のホスピタリティで迎えたいと思いました。パサデナの学生や一般の人々が秦野を知らない人が多くいるように、秦野市民の中でもパサデナのことを知らない人も多いと思います。より多くのみなさんにパサデナという素敵な地を知っていただき、来訪の際には市事務局、友好協会、姉妹都市協会だけではなく、秦野市全体でようこそ！と迎えたいです。



Photos







令和7（2025）年度
秦野市青少年訪問団パサデナ市派遣事業
訪問の記録

編集・発行 秦野パサデナ友好協会事務局(秦野市文化振興課内)